

御真骨堂

日蓮は亡くなる前に 遺書にこう書いています "身延山にお墓を建てて、私の心を永遠に住まわせてください。" 弟子たちはその願いを受けて、日蓮の遺灰を安置する御真骨堂を建立し、日蓮の墓所としました。久遠寺の霊場の一つとされています。

御真骨堂は、1881 年（明治 14 年）に尾張地方（現在の愛知県）の日蓮宗の檀信徒の寄進により建立されました。中央には五重塔があり、その中には日蓮の遺骨が納められている骨壺があります。五重塔は長崎日蓮宗協会から寄贈されたものです。1886 年（明治 19 年）に焼失しましたが、すぐに再建されました。

霊廟は八角形をしています。仏教神話では円は輪廻転生を連想させるが、円形の建物は建築が困難すぎます。さらに、大地震や火災の際には地下に下ろすことができるように設計されています。

御真骨堂は誰でも参拝することができますが、内部は一般公開されておらず、ほとんどの僧侶もこの神聖な場所に入ることができません。